

信濃川水系(信濃川上流) 上田圏域 流域治水協議会

上田圏域

計画: 「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに係る令和5年度の取組計画を①②③の別に記入(横断可)

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

- 河川管理者や河川沿川地区等と共同で点検を実施(県、2市)
- 自主防災組織の立ち上げ・活動支援研修等開催による人材育成(2市村)

教育活動

- 地区防災マップ、マイ・タイムラインの検討・作成支援(建設事務所、3市町村)
- ダム見学会や出前講座等による防災教育の実施(建設事務所・3市町村)
- 多様な生物の生息環境へ配慮した河川環境整備や水生生物調査の実施(建設事務所、1市)
- 小学生を対象とした防災教育の実施

訓練活動

- 学校や地域住民参加型の避難訓練を実施(3市町)

水防活動の支援

- 水防訓練や水防技術講習会の開催
- 水位計・カメラによる水防活動の支援(建設事務所)
- 備蓄資材の情報共有

水災害対策の支援

- 関係者が一体となったタイムラインの作成・検討・見直しの実施(建設事務所、2市)

流域治水の広報

- パネル展、防災教育、HP等での周知(建設事務所、3市町)
- 災害伝承カードの配布(建設事務所)

リスク情報等の提供

- 浸水想定区域等の公表(建設事務所)
- 水位計・カメラによる河川情報の提供(建設事務所)
- ハザードマップの作成・配布(3市町)

- まるごとまちごとハザードマップの検討・整備の実施(2市)
- 独自防災ポータルサイトの運用(1市)

計画策定

- 都市計画区域マスタープラン変更検討
- 浸水想定区域等を基に土地利用に係る計画の見直し検討(3市町)
- 立地適正化計画(防災指針)の見直し検討(2市)

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

周知、連携活動中心

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

情報提供、教育活動中心

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組めるよう、個人、企業・団体の行動を誘発して

計画策定や具体行動の支援中心

信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会(上田市)

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

- 河川管理者、河川沿川地区等と共同で点検を実施(年1回)
- 自主防災組織リーダー研修会の実施(令和5年度:2回)



千曲川合同巡視



自主防災リーダー研修会

流域治水の広報

- パネル展、防災教育、HP等での周知(令和5年度:1回)



教育活動

- 出前講座等による防災教育の実施(52回)
- 川遊びの面白さと怖さを学ぶ「令和5年度 鹿教湯内村川川遊び」実施(小学生19人)



外国籍市民のための防災基礎講座



リパトレッキング

リスク情報等の提供

- ハザードマップの作成・配付(令和5年3月更新)
- 独自ポータルサイトの運用



訓練活動

- 上田市防災訓練
地域住民参加型の避難訓練を実施



水防活動の支援

- 水防訓練の実施(8回 413人)



- 河川監視カメラ設置(1台、令和6年3月)

計画策定

- 立地適正化計画の見直し(防災指針の追加)(令和6年3月)



上田市立地適正化計画

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会(東御市)

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

- 河川愛護(清掃)活動39団体実施
- 河川管理者と河川モニターの連携
- 市と河川モニターによるパトロール

自然環境の保全

- 高校生による河川環境調査
年1回実施

教育活動

- 防災出前講座実施(田中地区)
- 小中学校への防災教育・出前講座
(柵津小、東部中)
- 市職員を対象に土砂災害講座を実施
(県の赤牛先生)

事前準備等の発信

- 台風接近前のため池低水位管理について発信

リスク情報等の提供

- 避難所・土砂災害ハザードマップをR3に更新(R4. 6に各戸及び市内企業等へ配布)
- ため池ハザードマップをR3に作成(全146池内、防災重点農業用ため池49池) 関係区へ配布済(R5に11池追加 R6. 6配布予定)
- 避難場所や避難経路等に関する地区防災マップ作製支援
(R5島川原区が作成し、整備済は5区)
- 市HPへ、国県のポータルサイトを貼付け情報提供

訓練活動

- 金原ダム緊急放流伝達訓練
- 非常時職員参集・情報伝達訓練(9月)
- 市内小中学校の避難訓練 年1回
(土砂災・浸水想定に含まれる5校)

被害軽減対策

- 災害拠点の機能確保(庁舎・病院に自家発電設置済)

計画策定

- 業務継続計画(BCP)の継続した取組
- 庁内災害タイムライン策定済、実行
- 下水道BCP計画策定済、実行
- 下水道施設耐水化計画策定済
- 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成支援
- 都市マスタープラン見直し、立地適正化計画による被害軽減のための誘導計画を検討(R6~7)

水防活動の支援

- 活動拠点整備の検討

水災害対策の支援

- 越流箇所への土嚢配布

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

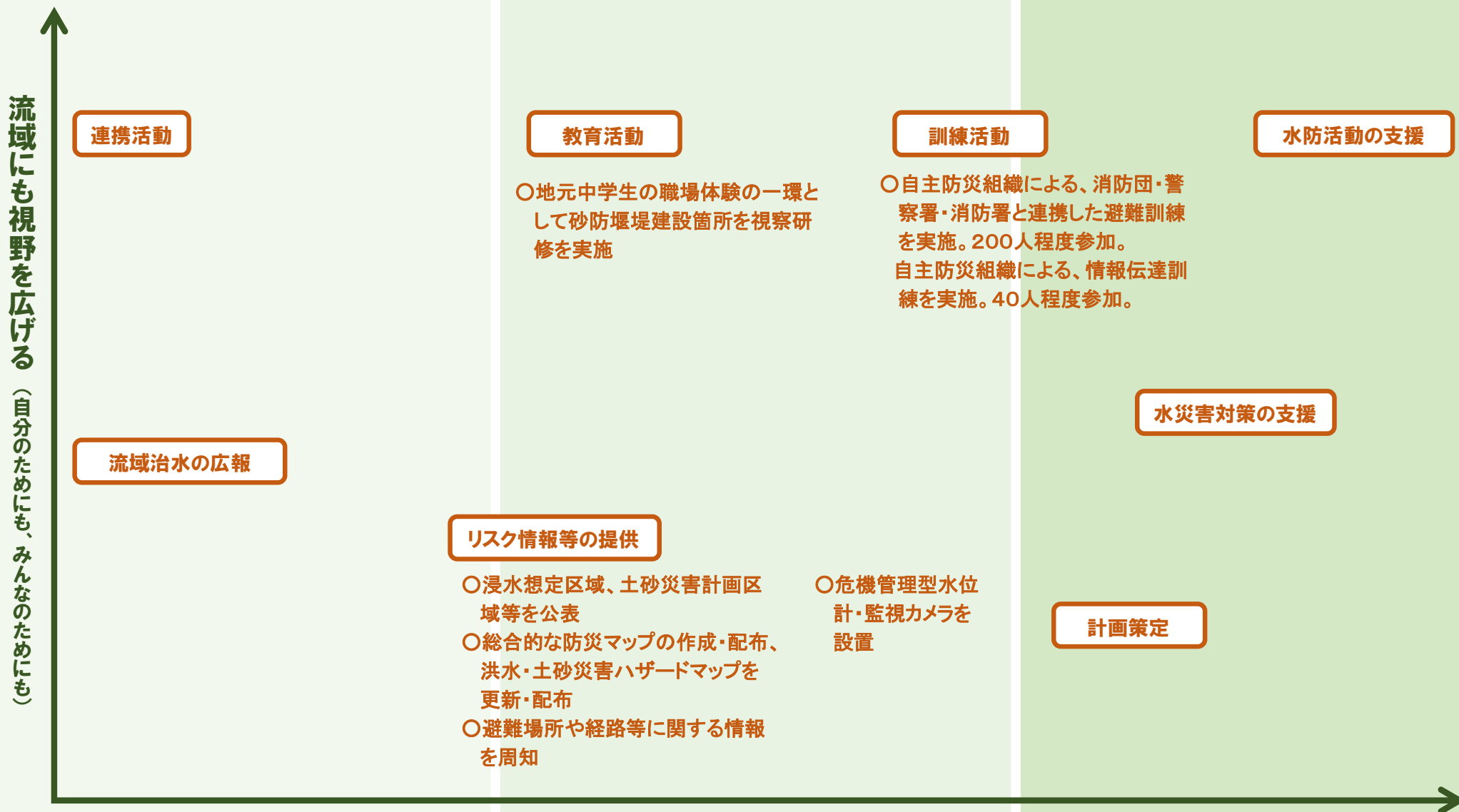
③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会(長和町)

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会(青木村)

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

- 長野市穂保地区との共同植樹会
(1回 約70名)



教育活動

- 中学校への防災講座を実施
(1回 約30名)



訓練活動

- 住民参加型の避難訓練を実施
災害対策本部(役場)からメール配信・IP端末による告知等)



信州大学とのリスキングプログラム

- 信州大学講師から役場職員向け研修実施
「知って、学んで、動かそう 防災・減災：フェイスフリーの視点から考える、これからの青木村の取り組み」

リスク情報等の提供

- 総合的な防災マップの作成・配布、洪水・土砂災害ハザードマップを更新・配布
- 緊急防災メールによる、リスク情報等の提供。

計画策定

- 地区防災マップの策定(R4中村地区、2回開催)



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える